

合志市総合政策審議会 【平成 27 年度 第 4 回 会議録】

(1) 会議の名称、開催日時及び開催場所

- ・平成 27 年度 第 4 回合志市総合政策審議会
- ・平成 27 年 9 月 28 日（月）午前 9 時 30 分～12 時 00 分
- ・場所 ヴィーブル中央公民館 研修室

(2) 会議の議題

- (1) 合志市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

(3) 会議の公開、非公開又は一部非公開の別

- ・公開

(4) 出席委員及び欠席委員の氏名

[出席委員] 寺本 秀信委員、荒川 和典委員、永尾 テル子委員、三宅 正恵委員、竹田 節子委員、小林 文子委員、出口 増穂会長、矢野 辰善委員、矢野 信司朗委員、松浦 隆委員、杉田 眞紀委員、緒方 幸代委員、東隆幸委員、緒方 量委員、田代 宏男委員（15 名）

[欠席委員] 田端 眞知子委員、峯 隆吉委員、大藪 真裕美委員、川端 正春委員（4 名）

[事務局] （企画課）澤田 勝矢 企画課長、坂本 好幸 企画課主幹
（政策課）坂本 政誠 政策課長、工藤課長補佐、杉村課長補佐、西村

(5) 審議内容

以下のとおり（要旨）

(6)傍聴者 なし

1 開会（午前 9 時 30 分）

出口 増穂 会長：もうすぐ 10 月です。朝は涼しいですが昼間は暑いですので皆様体調に気をつけてください。今日の会議の内容は次第に書いてある通りです。議事がスムーズに進みますように、皆様方のご協力をよろしくお願いします。

澤田 勝矢 企画課長：ここで、本日欠席の委員のお知らせをしておきます。田端委員、峯委員、川端委員、大藪委員この 4 名の方からは欠席の連絡をいただいています。

早速議題に入りたいと思います。議題の進行は会長をお願いします。

出口 増穂 会長：それでは早速本日の議題に入ります。まず議題1「合志市まち・ひと・しごと創生総合戦略」について執行部の方からご説明をお願いします。

工藤 一伸 政策課長補佐：「合志市人口ビジョン」について説明

出口 増穂 会長：今、執行部の方から説明を終わりましたが、質問・意見のある方は挙手をさせて下さい。

東 隆幸委員：合志市独自の事業は何があるのか聞きたい。

杉村 輝彦 政策課長補佐：合志市は「健康都市こうし」を掲げていますので、新ヘルス産業という健康づくりと経済を一緒に回す取り組みをしている。まだ準備段階ではあるが、例を挙げると、ウォーキングすることでポイントが貯まり、貯めたポイントで買い物ができるような仕組みを考えている。

もう1つ先駆的な取り組みとして、女性支援の取り組みがあります。女性の創業支援や、子育てと仕事の両立などの支援をするものです。

以上2つが特徴的だと思います。

緒方 量 委員：合志市は転入者が多く、人口が伸びているが、熊本市で働く人が多いため昼夜間人口の差が大きい。調整区域の規制緩和をし、雇用の創出を進めるべきと思う。また、総合戦略に掲げる目標に対しての具体案が見えない。もっと細分化して考えるべきだ。

工藤 一伸 政策課長補佐：土地利用に関しては国に規制緩和の働きかけを続けている状況であるため、総合戦略に盛り込むには難しい部分がある。重点区域におけるエリアポテンシャルの向上という形で盛り込もうと考えている。

緒方 量 委員：中学生まで子ども手当をとということだがその裏づけはどうなっているか。

工藤 一伸 政策課長補佐：今回の総合戦略のなかには盛り込んでいない、まち・ひと・しごとに特化した部分で戦略は考えている。

三宅 正恵委員：人口の推移については、子育て支援など各々の施策の効果もあるので

はないか。

杉村 輝彦 政策課長補佐：市子ども手当をどうするかという話はこの戦略の中には盛り込まないが、アンケートの中で、「子育て」が合志市のイメージだという市民が多かった。昼夜間人口の問題もあるが、その中でも仕事づくりは進めていくつもり。戦略の中で4つ柱を掲げているが、「しごと」の柱は一番ボリュームがあり具体的に作っている。ヘルス産業、農業、アンテナショップなど、先駆的な取り組みを行いたい。

昼夜間人口については確かに熊本市への流出が多いが、最近ではかなり差が詰まってきた。差をイーブンもしくは逆転できるよう今後も頑張っていく。

工藤 一伸 政策課長補佐：「しごと」の件で大きな企業を持ってくるというのは簡単ではない。小さな企業でもいいので合志市で事業を起こしてもらい、合志市で大きくなってもらうという考えも持っている。戦略にも盛り込んでいくつもり。

緒方 量 委員：難しい問題だとは思いますが、調整区域の規制緩和をしなければ、企業誘致は絵に描いた餅なのではないか。

工藤 一伸 政策課長補佐：そこは国、県に訴え続ける。

坂本 政誠 政策課長：総合戦略にも記載したいが、5年間で出来るか不明な部分があるので記載していない。

出口 増穂 会長：合志市の人口が増えても、周りの市町村の人口が減るという状況はよろしくない。県全体で少子化問題を考えて欲しい。

杉村 輝彦 政策課長補佐：県のビジョンとあわせる形で出生率を設定している。市民アンケートで何人子どもが欲しいかを伺ったが、一番多かったのが2人、次が3人となった。あとは市が条件をどのように整備できるかになると思う。

出口 増穂 会長：是非お願いします。

東 隆之 委員：国や県の施策に乗るのもいいと思うが、その中で合志市独自の取り組みをやって欲しい。

杉村 輝彦 政策課長補佐：合志市は女性にスポットライトを当てる方針である。準備

段階ということもありそこまで具体的に記してはいないが、今回の戦略の一つです。

夫の稼ぎだけで子どもを3、4人養っていければいいのだが現実的には難しい部分がある。また、今回準備する中で、経営者に対して意向調査を行ったところ、女性を雇用する際はどうしても出産のことを考えてしまうというのが本音という方が多かった。

こういった現状があり、合志市としては女性が出産・子育てをしながら安心して働ける場の確保と整備に力を入れていく方針としている。

矢野 辰善 委員：アジアなど、外国から熊本に働きに来る方が多いと聞いたことがあるが、今回の戦略で考慮しているか。

工藤 一伸 政策課長補佐：確かに合志市でも農業機関などで外国人研修生の受け入れをしているようだが、特別にカウントはしていない。通常の転入転出として取り扱っている。

矢野 辰善 委員：道路や土地など社会基盤の整備については盛り込まないのか。

工藤 一伸 政策課長補佐：財政計画等との整合性を図りながら計画はしている。道路などのハード整備は今回の総合戦略とは直接関係はない。しかし、道路整備なども見越した表現は検討してみる。

矢野 辰善 委員：現在全国的に国の機関の地方移転が進んでいる。試験場の誘致の話があるが、合志市にも話があったのか。

工藤 一伸 政策課長補佐：合志市には、九州・沖縄農研、農業大学校などありますが、県から打診があり了解したという流れでした。

ただし、受け入れする場合は既存施設との調整が必要になってくる。既に施設があるが故にスピード面で他自治体に劣る部分がある。

出口 増穂 会長：他にありますか。無いようでしたら休憩にしたいと思います。

～ 休憩 ～

出口 増穂 会長：それでは審議会を再開します。

工藤 一伸 政策課長補佐：杉村 輝彦 政策課長補佐：「合志市まち・ひと・しごと

創生総合戦略」について説明

出口 増穂 会長：何かご意見ありますか。

田代 宏男 委員：規制緩和の件で国・県を動かして行ってほしい。合志市独特な特区申請みたいな物は考えられないか。

坂本 政誠 政策課長：国・県とはいろいろな話をしている。県だけへの要望だけでは状況が変わらないため、一昨年に九州地方整備局へ伺い、法律の解釈や、国の考え等話し合ったが、国と県の考えが違う部分があった。

その後、国に音頭を執ってもらい、国、県、合志市の3者でまちづくり会議を開催した。規制があるため合志市独自のまちづくりができないことを訴え、現状も視察してもらったところ、御代志地区の規制を少し緩和してもらえたとし、竹迫地区のまちづくりも理解してもらえた。国交省や農水省との調整、農地転用の手続き等やることは山積みだが、見えづらくて申し訳ないが、少しずつ進んできてはいる。

田代 宏男 委員：1つ提言しますが、職員は、「市長の考えはこうです」「市長はこうしています」と言う方が多く、市長に動かされている印象がある。逆に市長を動かすぐらいのパワーが欲しい。

矢野 辰善 委員：北熊本スマート IC のこと、中九州道のことについて状況はどうか。

坂本 政誠 政策課長：中九州道ついて、やっとルートが決まった。大津から熊本市に繋がるものだが、合志市を少し通る予定。北熊本スマート IC と中九州自動車道を繋げてはどうかという意見もある。

スマート IC については熊本市主導の事業であるため、合志市は熊本市の動きを待つことしかできていない。また、用地交渉においても、建設予定地は市街化調整区域のため地価が安く、地権者との交渉が難航し、当初予定より遅れている。合志市も負担金を払うので、どんなに遅くとも合併特例債の期限である平成 32 年までにという要望はしている。

矢野 辰善 委員：女性の子育てを支援するとあるが、男性への支援も考えてはどうか。

工藤 一伸 政策課長補佐：女性の復職や再就職を優先すべきと思うので、今回の5年計画の総合戦略には盛り込まない予定。今回は女性へのサポートを目玉にしたいと考えている。将来的には男性へのサポートも必要になるかもしれない。

矢野 辰善 委員：若者向けの記述が多いようだが3人に1人は高齢者。高齢者の中にはまだまだ働ける方が多いと感じる。高齢者の雇用に関して何か検討していただきたい。

杉村 輝彦 政策課長補佐：高齢者の働く場の確保は大事だと思う。間接的にはなるが、高齢者に出来るだけ長く元気に働いて欲しいため、市民の健康づくりに力を入れている。

工藤 一伸 政策課長補佐：高齢者の地方移住についても元気な高齢者に来ていただき質の高い生活を送ってもらい、地域にも貢献して欲しいという思いはある。

緒方 量 委員：健康づくりにいいのは歩くことである。例えば万歩計を配って推進するとかを考えてみてはどうか。

工藤 一伸 政策課長補佐：どれだけ歩いたかのデータを蓄積していくという事業もこの中には入っている。

公園などで歩いたデータを蓄積することによって、その後、体のデータが良くなったという効果が見えるような結果が出れば良いと考えている。

杉村 輝彦 政策課長補佐：ウォーキングについては公園に端末を置き、それにカードをかざすことにより、それをポイントにして活用する案がある。また、データを病院とも共有し健康指導に活かしていくことをやっていきたい。

東 隆之 委員：同じ所を歩くのではなく、違う風景を楽しみに歩きたい時もある。

工藤 一伸 政策課長補佐：元気の森公園のほかに妙泉寺公園、竹迫城跡公園、弁天山公園など、将来は広げていく予定です。また、ラジオ体操に来た人にポイントを与えるなどの広がり考えている。

緒方 幸代 委員：クラッシーノこうしの物産館での売り上げが伸びてきていると思う。生産者も品質を上げていこうとか、表示の仕方を考えたりしている。建設中の逆アンテナショップで県内の物産品を集めて売るというのは、合志市の生産者にとってプラスにならないのではないかという懸念を抱いている。

杉村 輝彦 政策課長補佐：建設するにあたり、合志市の商品とは被らない商品を置いて、新たな観光客を呼び込んで売り上げを上げたいと考えている。

三宅 正恵 委員：男性への支援については賛成である。ひとり親の家庭も頑張って子育てを行っているところもある。そういう人が輝ける施策もお願いしたい。

工藤 一伸 政策課長補佐：女性・子ども支援室を既に設置していて、取り組みを始めている。

出口 増穂 会長：他にありますか。時間になりましたので、他に意見がありましたら、意見提出用紙で意見提出をお願いします。

これで議事を終了します。

澤田 勝矢 企画課長：以上で第4回の総合政策審議会を閉じたいと思います。皆様お疲れさまでした。